

# フィールド風

(現場)からの

宮田守男

秋の食卓に欠かせない野菜・大根が食卓の膳を賑やかにする。これからの寒い季節には温かい煮物が何よりだ。大根の歴史は古

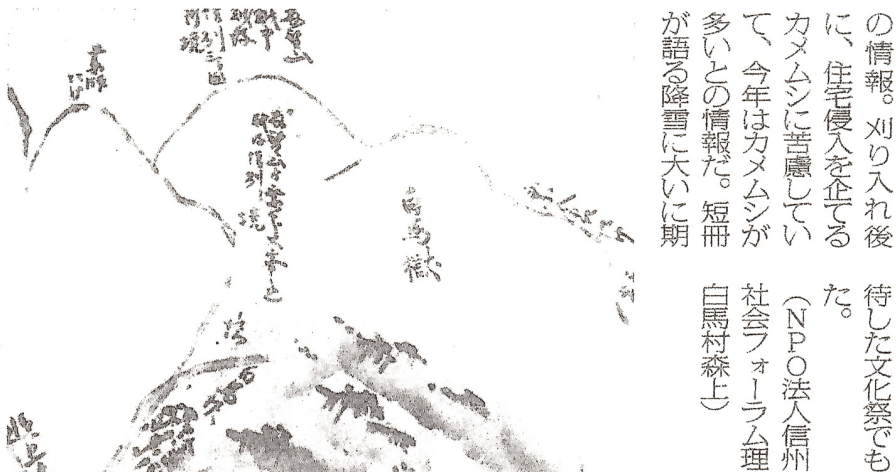
く、古代エジプトではピラミッド建設の労働者に報酬として支給されたが、当時は食用にはされず、種子から油を取るのが目的だった。だが品種改良の積み重ねで現在では一年を通して手に入り、ダイコンに含まれる酵素ジアスターゼは消化を助け、辛み成分イソチオシアネートには殺菌効果がある野菜。熱には弱いためお勧めは大根おろし。一方、やわらかく味がしみ込んだ煮物はカロリーが少なくダイエット向きだと福井新聞のコラム越山若水が紹介した。白馬産のダイコンを知人に

差し上げる機会があるが、「きめが細かく、甘い」との評判。ぜひ味見して、お客様の膳の逸品になれば地域の特産物の一つになると期待している。

11月初旬に開催された第49回白馬村文化祭。今回、江戸時代の文政8年に作成されたとする「山論済口絵図(さんろんすみくちえず)」に、現在確認されているものの中で「白馬」の表記が歴史上初めて登場した最古の畳1畳を越す大判の筆書き絵図の実物大のレプリカが展示された。神

城断層地震の際、横澤家から発見された古文書の添付絵図で、当時の塩島新田村と隣村の千国村との山地草刈場境界論争で、松本藩が仲裁し、証人として大庄屋らの連名と連印が記載されているとの説家」の展示コーナー。利用者から聞き出した昔から伝わの展示短冊。「白馬岳に雪3回。五竜岳に雪3回降れば、里へ降る」は初めて知った内容だった。また「カメムシの多い年は、雪が多く降る」の短冊。今年は、精米時に大量のカメムシで機械トラブルが発生と

## 多くの人達の文化との関わりを学ぶ事が大切だ



横沢家保存の筆書き絵図が歴史を語っている

秀明公民館長の真剣な眼差しが心に残る。作品への照明配慮や特別企画展示など文化を通じた人材育成に充てる財源を生み出す知恵がますます求められているのだろう。「おらの家」の展示コーナー。に、住宅侵入を企てるカメムシに苦慮している。今年はカメムシが多いとの情報だ。短冊が語る降雪に大いに期待した文化祭でもあった。(NPO法人信州地域社会フォーラム理事・白馬村森上)